

H22 全国学力・学習状況調査の結果についてのお知らせ

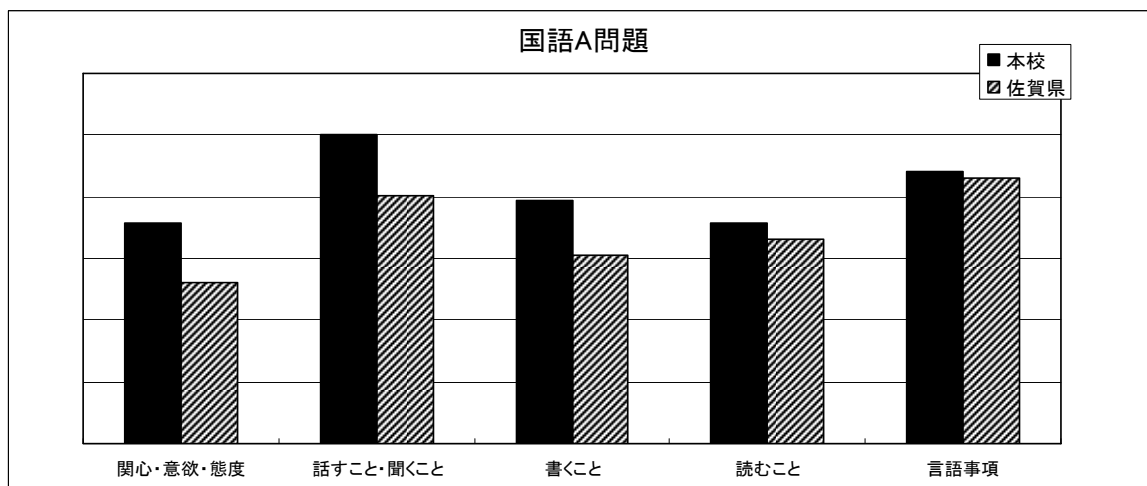
佐賀市立富士南小学校

全国的な学力の水準向上の観点から、児童生徒の学力ならびに学習の状況把握のために、4月に文科省による学力・学習状況調査が行われました。小学校の実施対象は6年生です。この分析結果をもとに今後の授業や教育活動の改善に生かしていきたいと思っております。概要について下記のようにお知らせいたします。

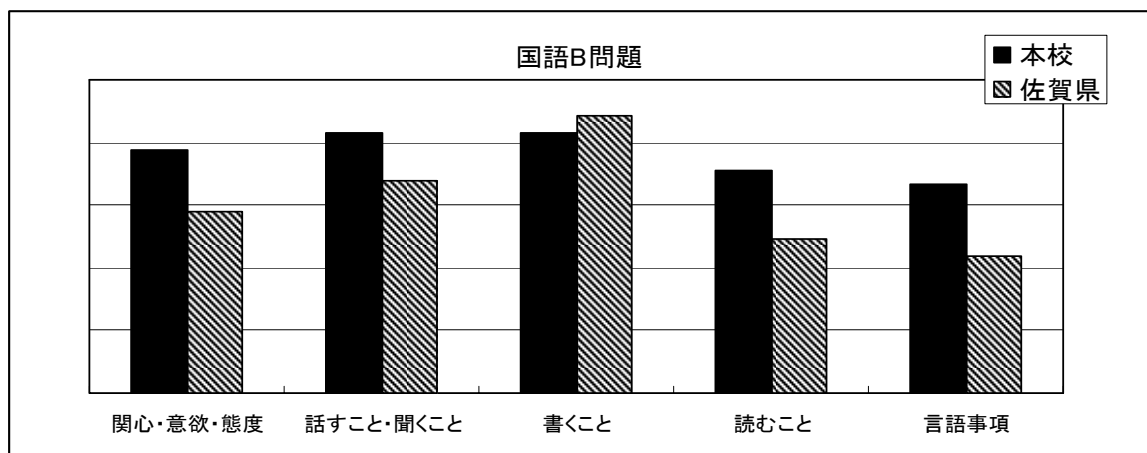
1 教科に関する調査について

本校は、「国語 B」において佐賀県の正答率を大きく上回りました。「国語 A」「算数 A」においては、佐賀県の正答率をやや上回りました。また「算数 B」においては、佐賀県の正答率をやや下回りました。学んだ「知識」を「活用」する力に課題があるようです。

(1)国語について（領域別分析）

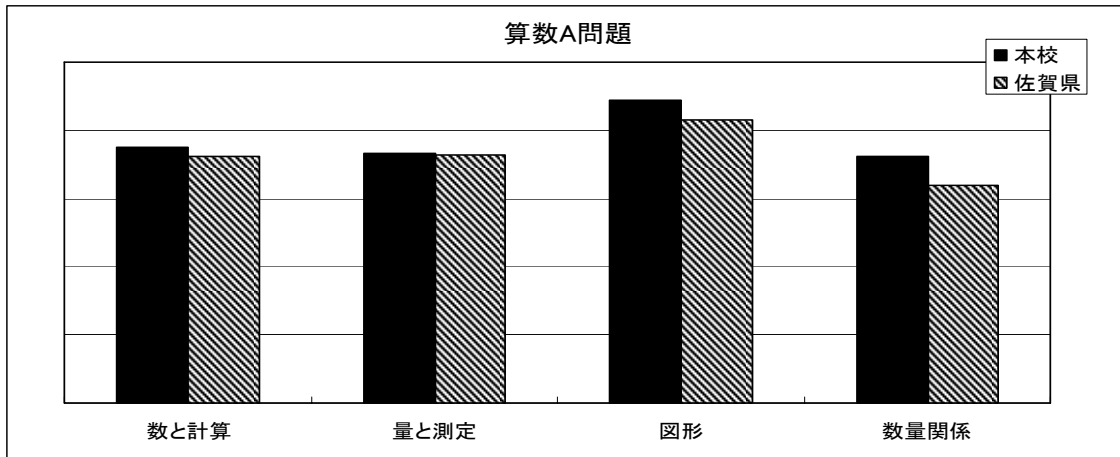


- 問題 A の 3 領域 1 事項および関心・意欲・態度の分析では、「関心・意欲・態度」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」において県平均正答率を大きく上回り、「言語事項」においては、県平均正答率とほぼ同じでした。学校における取り組みの成果が表れているようです。今後もこれまでの取り組みを続け、文章をしっかり読む力をつけるとともに、意識をして正しい漢字・熟語を文章の中で書く練習を繰り返し行っていく必要があるようです。

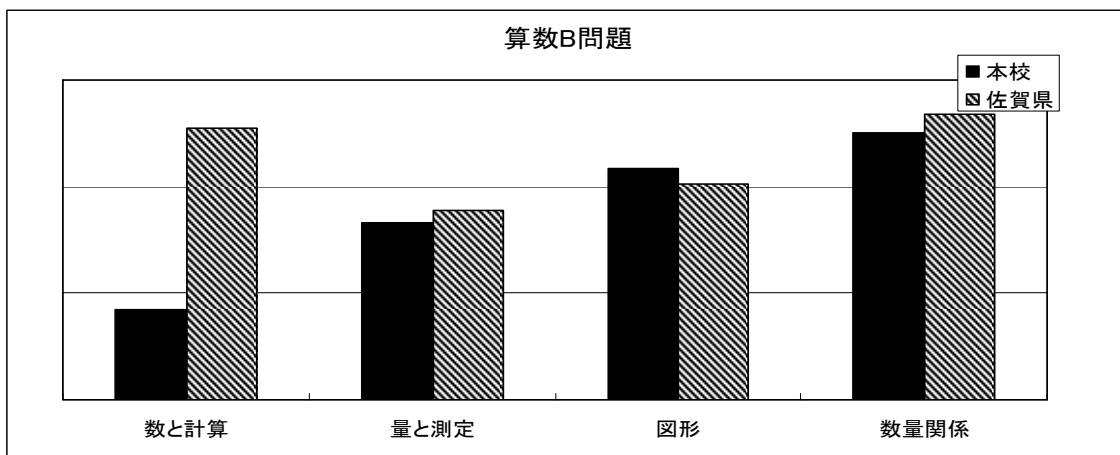


- 問題 B の「関心・意欲・態度」「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」の領域は、県平均正答率を大きく上回りました。しかし、「書くこと」の領域においては、県平均正答率を下回る結果でした。他の領域に比べ「書くこと」の正答率が低くなっているため、今後、自分の考えをまとめていく力をつけていく必要があるようです。

(2)算数について（領域別分析）



- 問題 A においては、「図形」「数量関係」の2領域で県平均正答率を大きく上回り、「数と計算」「量と測定」の2領域においては、県平均正答率とほぼ同じ結果でした。細かく見ていくと、商が1より小さくなる等分除の問題や計算のきまりに関する問題の正答率が低かったことから、問題をしっかりと読みとる力をつける必要があるようです。



- 問題 B においては、「図形」「量と測定」の2領域で県平均正答率とほぼ同じ、「数量関係」領域は県平均正答率をやや下回りました。また「数と計算」領域においては県平均正答率を大きく下回っており、問題の意味を捉えたり、獲得した知識や技能を活用したりする力に課題があるといえます。細かく見ると、示された式から条件に合う答えを判断したり、判断理由を記述したりする問題に弱いことがわかりました。生活の中で正しい判断をしたり、集めた情報を関連させて考えたりする経験を多く積ませること、根拠を明らかにしながら考えを表現したり、友だちとの練り合いの中でよりよい考えに深めていったりしていくことが、さまざまな教科の中で必要のようです。

◎改善のための手立てについて

※ 本校6年生は7名しかおらず、問題数も限られている中で、県と本校の平均正答率を比較して一喜一憂することはありません。しかし、本校児童の課題・改善すべき点を少なからず把握することができました。

○ 今後、本校児童に

- ・ 少人数学級のよさを生かしたきめ細やかな指導や個に応じた指導を徹底していきます。
- ・ 日々の授業の中に問題解決的な学習形態を取り入れ、「考える場面」「自分の考えを説明する場面」を設け、「思考力」を育てていきます。
- ・ 各学年で放課後等に時間を取り、学習したことが定着するよう指導・支援を行います。
- ・ 「目指す生活習慣・学習習慣」に近づくよう、児童・保護者への啓発を図りたいと思います。家庭学習の定着を図るために、全家庭に配布した富士中校区「家庭学習のすすめ」を各家庭で実施していただきたいと思います。また、毎学期1週間行っている「学びの週間」の取り組みの際には、親子で生活実態チェックをし、改善すべき点を話し合ってもらいたいと思います。

こういう手立てを取りながら、日々の授業・生活の積み重ねの中で改善していきたいと考えていますので、ご協力をよろしくお願いします。

2 生活習慣や学習環境に関する調査について

※ 質問紙調査の結果については、「佐賀市が目指す子ども像」の「基礎学力を身につけた子ども」に関する抜粋のほか、「倫理観・社会常識を身につけた子ども」に関して佐賀市で大切にしたい8項目、向上心・生命尊重・思いやり・感謝・規則・責任感・礼儀・勤労に当てはまる質問を抜粋して分析しました。

○ 「生活習慣について」「学習環境について」「地域とのかかわりなどについて」「いじめについて」等、ほとんどの項目において本校児童の前向きな姿勢がうかがえる結果でした。

ただ、「人の気持ちが分かる人間になりたい」「人の役に立つ人間になりたい」の項目が県平均と比べ低くなっているので、「総合的な学習の時間」の体験活動等を通して、友だちや先生だけでなくいろいろな人と積極的に自ら関わっていくことができるよう、コミュニケーション能力をつけていく必要があるようです。自己肯定感を高め個々の能力を十分発揮できるような支援を行ったり、キャリア教育を通して将来の夢や希望を抱くことができるような取り組みを行ったりする等、工夫していきたいと思います。

家庭学習に関しては、富士中校区で提示した「家庭学習のすすめ」「家庭学習の約束」の取り組みを学校と家庭が連携して行っていくことが大切であると思われます。また、毎学期1回行っている「学びの週間」での振り返りをもとに、生活習慣について親子で話し合う機会を持っていただき、よりよい生活習慣作りをお願いします。

今後も引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

調査の項目	本校%	佐賀県%
・朝食を毎日食べている ※「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合	100	96.9
・平日、どれくらいの時間読書をするか ※「10分以上」と答えた児童の割合	71.5	66.8
・平日、どれくらいの時間勉強をするか ※「30分以上」と答えた児童の割合	100	84.0
・普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられているか ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	71.5	78.7
・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	100	94.0
・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	71.4	75.3
・将来の夢や目標を持っている ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	85.7	86.4
・家の手伝いをしている ※「よくしている」「時々している」と答えた児童の割合	100	81.8
・自分で計画を立てて勉強している ※「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合	71.4	56.9
・新聞やテレビのニュースなどに関心がある ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	100	67.0
・今住んでいる地域の行事に参加している ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	85.7	74.0
・学校の決まり（規則）を守っている ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	85.7	90.3
・友達との約束を守っている ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	100	97.1
・人が困っているときは、進んで助ける ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	85.8	80.4
・近所の人に会ったときは、あいさつをしている ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	100	93.8
・人の気持ちが分かる人間になりたい ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	<u>71.4</u>	92.7
・いじめは、どんな理由があってもいけないこと ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	100	95.9
・人の役に立つ人間になりたい ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	<u>85.7</u>	94.3
・自分には、よいところがあると思う ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合	71.5	74.4